

令和6年度 学力向上プラン

学校名 中央区立明正小学校

学校の教育目標

よく考える子ども なかのよい子ども 健康な子ども

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

【学校において育成する資質・能力】問題解決学習の過程からの「思考力・判断力」

- ・少人数指導や補習教室等で基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図る。
- ・問題解決学習の学習過程を設定し、思考力・判断力・表現力等を育成する。
- ・自分から進んで課題に取り組むなど、児童の主体的な学習態度を育成する。
- ・児童同士の交流等を通して自他のよさや可能性に気付かせる。多様性や協働性を重視する。
- ・聞く・話す・発表する・まとめる等の言語活動を充実させる。
- ・各教科等との関連を図った教科等横断的・探究的な活動、体験的・問題解決的な活動を行い、学び方やものの考え方、表現する力を身に付け、課題を探究する態度や姿勢を育成する。

令和6年度「学習力サポートテスト」や令和6年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題及び要因

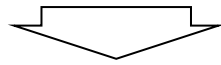
	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国 語	「令和6年度学習力サポートテスト」において、4・5年は全国平均を大きく上回っている。5年は同程度。6年は「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域が全国平均を下回った。特に説明文の内容を読み取る問題に課題がみられた。 どの学級も平均を大きく下回る児童が数名おり、集団の中で差が見られる。	読書に対する関心の個人差は学年が上がるほど大きい。全体的に読書の時間が不足している。 文章を読んで想像したり、自分の意見を文で表現したりする経験が不足している。学校全体で図書に触れる活動を増やしたり、叙述を元に登場人物の心情を捉えさせたりする。 国語を苦手とする児童へのフォローアップが十分とは言えない。個に応じた指導の機会が十分と言えず、他の児童の意見や作品に触れる活動が不足している。
算 数	「令和6年度学習力サポートテスト」において、4・5年は全国平均を大きく上回っている。6年は同程度。どの学年も集団の中でばらつきがあり、学年の平均を押し上げている上位層の大きな集団と、中間層・下位層の小集団とに散らばっている傾向が見られる。 記述形式の問題の正答率が比較的低い。思考・判断したことを文章に表現することを苦手とする児童が見られる。	習熟の時間を十分にとれずに次の単元に入る場合がある。 個に応じた指導の機会が十分とは言えない。 答えを導き出す過程を大事にできていない場合がある。自力解決の際、ノートに自分の考えをしっかりと書き、その後に考え方をペアやグループで説明したり確認したり、自分の解法を振り返ったりする活動が不足している。

社 会	「令和6年度学習力サポートテスト」において、4・5年は全国平均を上回っており、6年は同程度である。学年間で差はあるものの、地図を読み取る問題や資料をもとに考える問題で課題が見られる。 4年生は「地域」領域で、「地図記号」の問題で正答率が低い。 5年生は、「自然災害」の領域（全2問）は、目標値を大きく下回っている。 6年生は、どの領域でも、目標値以下の問題が1～2問程度ある。思考・判断・表現を問う問題で正答率が低い。	問題解決的な学習が定着しておらず、児童が自ら資料を収集・選択し、活用する場面が十分に設定されていない。 地図の使い方や地形の読み取り方を指導する時間が不十分である。 1つの資料（写真や図、表）を丁寧に読み取ったり、複数の資料を比較・関連付けして考えたりする活動が不足している。 用語と意味をリンクして知識を獲得させておらず、ただ用語だけを覚えている児童が見られる。 社会科の学習で学んだことを日常の社会生活に生かす学習、活動が不十分である。
理 科	「令和6年度学習力サポートテスト」において、 4年生は「植物の育ち方」及び「こん虫のからだのつくり」についての理解について課題があり、特に推測や説明に関する活用問題の苦手が見られる。 5年生は、「動物のからだのつくりと運動」及び「月と星」についての理解について課題がある。 6年生は、「流れる水のはたらき」「けんび鏡の使い方」「電流のはたらき」について知識及び活用の苦手さが見られる。また、他単元においても説明や推論など、活用が求められる問題にも課題が見られる。	自然事象に関する体験が少ない。実際の観察や体験の場を増やすとともに、さらに映像や図鑑を活用し、知識・理解を深めていく必要がある。 屋上にある花壇の数を増やしたり、積極的に生き物を飼ったりする活動など、自由に観察できる時間を設けたりすることが不足しており、視点を明確にして観察することができていなかったと考えられる。 また、問題解決の思考過程にそった活動不足とも考えられる。問題意識をもった上での「予想」「方法立案」「考察」が不十分であり、それらの表現及び練り上げる時間が必要だったと考えられる。科学的用語などの知識的な内容に関しては、一時的にふれる状態であり、反復学習の不足や系統性を意識した関連付けの場を指導者側もより意識する必要があると考えられる。
英 語	「令和6年度学習力サポートテスト」において、6年は全国平均とほぼ同程度である。 英単語の転記、簡単な語句や基本的な表現を用いた英作文の正答率が全国平均を下回った。 知識・技能の定着に個人差が大きい。授業でも意欲に差があり、全体の前で英語を話すことに消極的な児童が見られる。また、新しいフレーズがなかなか定着しない。	知識・技能の定着に個人差が大きいため、発音や表現に対する自信のなさが生まれてしまうと考えられる。また、恥ずかしさも伴うことで、積極的に学習に取り組めなかったり、ゲームに夢中になって英語を使えなかったりする。 意欲的に伝え合う児童が限られる。 発話や聞き取りが中心となり、単語や表現を「書く」活動が不十分である。英語を『活用』をすることが不十分である。

体 育	「令和５年度東京都統一体力テスト」の結果において、４年男子は「立ち幅跳び」「上体起こし」、女子は「握力」「上体起こし」「立ち幅跳び」の数値が低く、筋力、筋持久力、筋パワー等に課題がある。 ５年は男女ともに「長座体前屈」「反復横跳び」、女子「ソフトボール投げ」の結果が低く柔軟性、敏捷性、筋パワー、投力に課題がある ６年男子は「立ち幅跳び」、女子は「反復横跳び」、男女ともに「上体起こし」の結果が低く、筋パワー、筋持久力、敏捷性に課題がある。	運動量や運動経験に個人差がある。暑さによる熱中症の危険性が影響し、休み時間に遊ぶ機会が減りつつある。また、冬になると寒さから外で過ごす児童が減ることで運動量が減っている。さらに、タブレットPCを使って室内で過ごす児童が増えたことも運動量の低下につながった。 また、休み時間の遊び内容が固定化し偏りが見られる。ドッジボールやキャッチボールなど十分な広さを確保できないこともあり、ボールを投げる遊びをする児童が少ない。 体育授業において、運動量を確保することが課題である。投げる運動や器械運動領域に苦手意識をもち、進んで取り組むのに消極的な児童が見られる。
-----	---	---

学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
① 各教科	国語	「令和７年度学習力サポートテスト」の全ての実施学年で、領域「話すこと・聞くこと」「読むこと」において、正答率８％アップをめざす。また、他の領域においてもそれぞれ参加校平均点を上回るようにする。
	算数	「令和７年度学習力サポートテスト」の全ての実施学年で、記述式問題の正答率３％アップを目指す。また、他の領域においてもそれぞれ参加校平均点を上回るようにする。
	社会	「令和７年度学習力サポートテスト」では、４年生は「地域」５年生は「自然災害」の領域の正答率を５％アップをめざす。６年生は思考・判断・表現を問う問題での正答率を５％アップを目指す。また、その他の問題でも、全ての実施学年で、それぞれ参加校平均・点を上回るようにする。
	理科	「令和７年度学習力サポートテスト」の「物質・エネルギー」領域の正答率３％アップを目指す。また、他の領域においても、それぞれ参加校平均点を上回るようにする。
	英語	「令和７年度学習力サポートテスト」の全ての単元において、参加校平均点を上回るようにする。 学期末テスト（知識・技能を問う問題、パフォーマンステスト）において、全ての学年で全児童が７０％以上を達成し、かつ達成率９０％の児童が過半数となるようにする。
	体育	「令和７年度東京都統一体力テスト」の全ての実施学年で、それぞれ参加校平均を上回るようにする。
② 授業改善		学校評価の自己評価において、授業に関する項目で、全ての教員においてＡＢ評価９０％を目指す。
③ 家庭との連携		学習用具の準備や宿題の達成率を、各学級で学年末に９０％以上を目指す。

④ 体力向上	「令和7年度 東京都統一体力テスト」における種目「握力」「20mシャトルラン」「握力」「ソフトボール投げ」において、全ての実施学年で、それぞれ参加校平均を上回るようにする。
--------	--



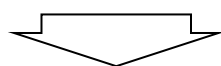
【目標達成のための具体的な取組内容】

① 各教科	
国語	・基礎・基本の定着を図ることを目的としている週2回の「明正タイム」の時間や家庭学習を利用し、漢字の読み・書きを反復練習する。 ・国語の教科書の題材から関連した平行読書を行うことで、図書と親しむ機会を増やす。 ・ペアやグループの対話的活動を取り入れ、他者の意見や参考となる作品に触れる機会を増やす。 ・読書活動や辞書で語句を調べる活動などを取り入れ、言語の理解を広げ、深めるようにする。 ・叙述を元に登場人物の心情を読み取る活動を丁寧に行う。 ・新聞作りや感想文、調べ学習後の発表物作成など、文章を書く学習を教科等横断的に取り入れる。
算数	・答えを導き出す過程を大事にする。自力解決の際にはノートやタブレットPCに文章や図、式を使って自分の考えをしっかりと書かせ、その後に考え方をペアやグループで説明したり確認したり、自分の解法を振り返ったりさせる。 ・東京ベーシック・ドリルや診断テストを活用し、繰り返しによる学習の定着を図ったり、学習状況を個別に把握したりする。 ・休み時間や明正タイム、水曜日の放課後、個人面談期間を利用して算数少人数担当による個別の指導を充実させる。 ・単元の指導が終わっても、明正タイムや宿題等を活用して繰り返し習熟を図る。 ・他教科（社会・理科など）の学習時にも、長さ、グラフ、表などの読み取りを丁寧に行うようにする。
社会	・問題解決的な学習を展開し、かつ各単元で獲得すべき知識事項をしっかりと教えられるように、単元のどこでどんな知識を獲得させ、どこでどんな思考させるのか単元指導計画を明確にして指導する。また、可能な限り、単元内で社会科の学習で学んだことを日常の社会生活に生かす学習・活動を取り入れる。 ・資料の読み取り方を丁寧に指導し、必要な情報を的確に得られるようにする。 ・1授業時間内で資料を精選し、複数の資料を比較・統合・関連付けして考える活動（時間）を設定し、思考力を高める。 ・グラフや表、写真だけでなく、地図から読み取る活動をすべての学年において意図的に取り入れる。
理科	・基礎的・基本的な知識・技能は、確実に教え、定着させる。 ・自然事象に関する体験が少ないため、実際の観察や体験を充実させ、さらに映像や図鑑を活用し、知識・理解を深めていく。栽培活動の充実を図り、タブレットPCによる記録を通して、事物を撮影したものをじっくり見たり、録画した事象を何度も繰り返し確認したりすることを通して結果を実感の伴ったものとして受け止められる場面を意図的に設定する。

	・問題に対する予想を考える際に、生活経験や既習内容に目を向けるはたらきかけを行うことで日常に関連付けた考え方の素地をつくる。 ・予想を検証するための実験方法を児童自ら立案させることで、主体的な学習活動を促す。 ・実験結果からの考察や結論の導出を丁寧に行う。抽象化・一般化し、さらに多様な内容へ学習の意識を広げたり、関心・意欲・態度を高め継続させたりする。
英語	・全学年を通じて、様々なゲーム活動やコミュニケーション活動を行い、楽しみながら英語を使えるように活動を計画していく。 ・毎時間の学習の流れをパターン化することにより、見通しをもって活動できるようにする。1時間のめあてを具体的に示したりゴールを明確にしたりするために、授業の流れを示すアジェンダを黒板に掲示し、各学年の英語担当が授業を組み立てていくことを目指す。 ・学習の終わりに振り返りを行い、児童自身が成長や課題に気づき、今後の目標設定をできるようにする。 ・年間指導計画に英単語や表現を「書く」活動を設定し、意図的・計画的・系統的に「書く」活動を取り入れる。
体育	・年間を通して児童が自分の目標やめあてをもって粘り強くなわとびやペースランニングに取り組めるように体育朝会や体育の授業を使って働きかけ、巧緻性や持久力向上を図る。 ・休み時間（内遊び）でも行える握力・投力の向上につながる活動（紙鉄砲やメンコのような遊び）を紹介する。 ・休み時間には各学級でクラス遊びを企画するなど校庭で遊ぶ機会を増やす。

② 授業改善	
取組Ⅰ	「中央区小学校授業スタンダード」を授業設計のベースとして、校内で互いに授業公開する期間を毎学期に1週間ずつ自主研修会を行い、学校全体の授業力向上を目指す。
取組Ⅱ	校内研究を中心として、問題解決的な学習や対話的な学び・学習評価の在り方の共通理解を図ることで、各教科の指導に波及させる。
③ 家庭との連携	
取組Ⅰ	保護者会や学校からの便り（学校便りの中に、各学年のページを設ける）等で学習状況や学校での取組を伝える。 音読や自主学習ノートなどへの押印や記入などを通して保護者の関わりを増やし、理解と協力を得るとともに、発達段階に応じて家庭での学習の協力を依頼する。 1学期末と2学期末の個人面談において児童の学力・学習状況について成果と課題を学校と家庭で共有する。今後の指導の方針を明確にし、学校と家庭とで同じ方針をもって児童の指導にあたれるようにする。
取組Ⅱ	夏休みの期間を活用し、家庭の理解と協力を得て、基礎的・基本的な学力の定着を目指した夏季学習教室を実施する。

④ 体力向上	
取組Ⅰ	「なわとび」は、体育朝会やなわとび朝会を月に1度設定し、記録向上を目指して練習に励む。また、6年間継続して使用するめあてカードを活用することで年間を通して各個人がめあてをもって取り組めるようにする。また、「なわとび」・「ペースランニング」の全校での大会を設定する。実施前に各自の目標をめあてカードに書き、期間を設けて集中して練習に励めるようにする。事後には振り返りをし、成果と課題、今後のめあてを自覚させる。
取組Ⅱ	本校のマイスクールスポーツである「なわとび大会」と「マラソン大会」の取組を公開し、家庭からの理解と協力を得て、継続して児童の意欲喚起を図る。また、休み時間の外遊びで、ボール投げや鉄棒などの遊具を使った遊びを奨励することにより、握力や投力の向上にもつなげていく。



【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点		取組の成果	取組の課題及び解決策
①学力基盤	国語	図書コーナーの設置や区立図書館の団体貸出の利用など、図書を利用した学習を取り入れた。児童の興味関心を醸成し、登場人物の心情を捉える力や漢字の力を伸ばすことにつながった。	継続して児童が図書に触れる機会を増やす必要がある。今後は読書週間や学級文庫の充実など、児童が文章に興味を持ったり文字を使って思考したりする環境を整えていく。また、叙述に立ち戻った指導を意識することで、一つ一つの言葉を大切に読み解く力を伸ばす。
	算数	ベーシックドリルの分析から、児童の苦手な部分について重点的に指導したことにより、正答率が各項目で高まりが見られた。特に作図に関しては20%以上の高まりが見られた。(6年生)単元の終盤には、問題づくりを設定し、学び合いの場面を行ったことで、学習の定着に繋がったように感じる。	高学年になるほど、学力差が広がっている。低下層の児童の学力を上げるために、復習する場面を設定したり、既習事項がすぐに確認できるような掲示物を用意したりする。下学年の段階から学習を補充する場を用意することで、高学年での学力差が出ないようにしていく。また、ベーシックドリルでの正答率が低い単元に関しては、教員間での情報共有を行い、次年度の指導に生かしていく。
	社会	資料の見方を丁寧に指導したことで、読み取りの力が身に付いた。地図を活用したり白地図にまとめたりする活動によって、知識の定着につながった。問題解決的	より知識を定着させ、思考・判断・表現力を高めるために、単元末にまとめの時間を設定し、知識を整理・再構築する必要がある。思考・判断・表現力の向上のため、複数の資料を用意

		な学習を継続して実践したことで、学習意欲や思考力の向上を図ることができた。	し、比較・統合・関連付けして考える時間を設ける必要がある。
	理科	問題解決の学習過程、特に「予想」や「方法立案」「考察」の過程を意識して行うことにより、論理的かつ具体的に事物・事象に目を向けられるようになった。問題に対して推測することや考えを説明する力が徐々に身に付いてきた。	結論付けられた考えや科学的な用語の定着に課題が残っている。系統性を意識した導入を行うことに加え、具体物にふれられない単元に関しては、ICTを積極的に活用し、探究による情報収集や共有を通してアウトプットを行うことで深める時間を設ける必要がある。
	英語	様々なゲーム活動やコミュニケーション活動を行い、楽しみながら英語に親しめるようになってきた。	単語や簡単な文法を話したり書こうとしたりする様子は見られたが、意味が分からず、とりあえず使っている現状があるので、意味を確認しながら反復していく必要がある。
	体育	体育活動の発表の機会を設けたことで、児童が自分の目標やめあてをもち、そこに向かって体を動かすことができた。	児童が体を動かす楽しさを感じることができる指導の工夫、継続して児童が運動に取り組めるための工夫が必要である。
②授業改善		自己申告期間を活用し授業を公開し、校内でお互いに気軽に授業を見合う環境をつくることができた。校内研究において、一貫した取り組みができるように話形やふりかえりの視点を明確にし、教室に掲示したことで全校で共通した指導を行うことができた。	若手教諭、異動者が多いので、実技研修や、児童の様々な活動（話し合い、発表、体育の準備、片付けなど）において、一貫した取り組みができるようにOJTや校内研修の充実を図り、全校で共通した指導を行うようにしていく。
③家庭との連携		個人面談での児童の学力、学習状況についてのハイパーUQや学力調査の結果など具体的な資料を提示することにより、成長や課題に関して、保護者と共有しやすかった。	発達の段階に応じて保護者に家庭での学習の協力を依頼していく。必要に応じて電話や連絡帳、オンライン、手紙での配布など、連絡媒体を工夫することで協力が得やすいようにしていく。
④体力向上		「なわとび」「ペースランニング」では、毎年同じ学習カードを使用することで、昨年度からの成長を感じることができ、次年度の目標をもつことができた。	「なわとび大会」「マラソン大会」で子どもたちの力が発揮できるように、体育の授業以外で練習する場面を設定していきたい。